

【 第15回 女子ジュニアアジア選手権 】

2019年7月20日～7月29日 レバノン・ベイルート

試合結果報告 7月20日 (土)

JAPAN	vs	ウズベキスタン
18	1st	11
20	2nd	13
	ex	
	ex	
38	TOTAL	24

個人得点

No.	NAME	1st	2nd	ex	ex	TOTAL
1	榎 真菜	0	0			0
2	田淵 美沙	2	0			2
3	上田 遥歌	1	0			1
4	阿部 美幸	0	3			3
5	谷藤 悠	1	1			2
6	石亀 萌夏	0	4			4
7	服部 沙也加	0	1			1
8	弓削 春風	4	2			6
10	平野 宗香	1	1			2
12	大山 めい	0	0			0
13	安田 つぐみ	3	1			4
14	瀧川 璃紗	1	2			3
15	宇治村 唯	1	2			3
16	上嶋 亜樹	0	0			0
17	橋口 和佳奈	2	3			5
18	竹内 琉奈	2	0			2
TOTAL		18	20	0	0	38

戦況

日本の初戦の相手はウズベキスタン。開始からアグレッシブな6-0DFを敷く日本に対して、ウズベキスタンは体格を生かした力強いプレーで日本DFを崩し、先制点を決める。しかし、日本も相手のミスからの速攻で田淵がミドルシュートをねじ込みすぐさま同点に追いつく。その後もシュートチャンスは掴むものの、初戦の緊張感から中々得点できない時間が続く。

前半15分を過ぎたあたりから、DFに安定感が見られるようになる。勝負所での相手シュートもGK榎がしっかりとセーブし、速攻からの連続得点を挙げ、18-11の7点リードで前半を折り返す。

後半開始1分、上田のスピードあるカットインプレーが相手チームの退場を誘う。退場に伴い獲得した7mスローを阿部が確実に決め、その後も橋口のポストシュート、平野のカットインプレーなどで着実にリードを広げていく。

しかし、ウズベキスタンもダブルポストやサイドハンドのミドルシュート、利き手側への力強いカットインプレーで巻き返しをはかる。苦しい展開になりかけたところで、再び上田のカットインプレーによって相手チームの退場を誘い、勢いを取り戻した日本。その後も相手のミスをしっかり得点につなげ、10点以上の大量リードを奪い、最終的には38-24で初戦を白星で飾った。

報告記入者 :

永野 翔大